

教育推進室会議（第1回）議事要旨

日 時：平成24年9月3日（金） 13:00～14:20

場 所：総合教育棟1階 教育担当理事室

出席者：中根室長（教育担当理事），田中（21世紀教育センター高等教育研究開発室），森（人文学部），加藤（医学研究科），伊東（理工学研究科），石黒（農学生命科学部），手塚（学務部長）の各室員

欠席者：郡（教育学部）室員，木村（21世紀教育センター）オブザーバー

陪席者：栗野教務課長，五十嵐教務課長補佐

【議 題】

1 教育推進室室長の選出について

- 議事に先立ち、栗野教務課長から、資料1及び資料2に基づき、本日は新体制による第1回目の開催となること、新たに制定された内規にある「室長は互選による」に基づき室長を決める必要があることについて説明があった。
室員から室長の推薦がなかったことから、新体制となり重要課題も多い状況もあるので、当面は機構長が室長を兼任して運用していくことでどうかとの提案があり、了承されたのを受け、以降の進行を室長に交代した。
- 室長から、前回議事要旨案の確認が行われた。また新体制となったが、認証評価自己評価書を作成し、今後教養教育の改革について検討していく関係から、木村21世紀教育センター長にはオブザーバーとして出席いただくこととしたい旨の発言があり、了承された。
- 引き続き室長から、教育推進室は教育推進機構の中の一つという位置付けとなること、教育推進機構会議では、21世紀教育の問題など全学的な早期に対応しなければならないことについて検討していくこと、同機構会議は9月28日に第1回目を開催する予定であるが、2回目以降に「国際化教育の推進」と「大学院教育の充実」に係るワーキング・グループを立ち上げて検討していきたいと考えていること等についての説明があった。また、その中でいろいろな案件が出ることも考えられ、その際は教育推進室で検討を行うこともある旨発言があった。

2 教育推進室における直近の検討課題について

(1) 認証評価自己評価書の作成

- 田中室員から、資料3に基づき、自己評価書の編集作業・スケジュール案について説明があり、承認された。また、後日教務課から、観点毎の自己評価書作成様式、各学部・研究科から企画課に提出された自己評価書等を作成担当者に届けることとした。

(2) 科目ナンバリングの導入

- 田中室員から、資料4に基づき、目的・期待される効果・制度等、導入計画案について説明があり、概ね次のような意見等があった。
 - ・ 難易度を定める基準はあるのか。
 - ・ 基準は特にないので、各部局で決めていただくことになる。
 - ・ ナンバー（難易度）が3となっている科目を受講する場合は、2に達していないと受講できないという考え方でよいのか。
 - ・ 基本的にはそうなるが、例外があるのか分からないので、各部局で考えていただくことになる。
 - ・ 他大学との単位互換が容易になる、とあるが、難易度については大学間には差があると思われる。
 - ・ ナンバーだけで機械的に単位互換を行うことはできないが、目安にはなると思う。
 - ・ 学生から見ての難易度という視点が入っているのか。
 - ・ 難しい重要な議論であるが、できれば学生に対するレベルということで考えていただきたい。
 - ・ 学生また教員側の受け取り方を考えると、難易度という表現に抵抗感を覚える人もいないか。

- ・ 学生にとってそこまでの準備ができていないか、などの表現の方がよいかも知れない。
 - ・ 教員にとっては、改めてツリー（科目の構成）の見直しができ、お互いの科目間の観点も確認できる。
 - ・ 規定の改正は伴うのか。
 - ・ 規定の改正には特に関わらないと思う。
- 室長から、できるだけ全学的なコンセンサスを得た上で実施したい旨発言があった。また、ナンバリング導入の検討にあたり、9月21（金）13:00～国際基督教大学から講師を招いての勉強会を実施すること、教育推進機構会議の委員及び学部等の事務方にも案内する予定であることの説明があった。

3 今後の教育推進室のミッションについて

- 室長から、教育推進室では今後、文部科学省から6月に出された「大学改革実行プラン」と中央教育審議会から8月28日に出された「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(答申)」に対応し検討していくことになる旨の説明があった。
- その中で、自修時間が少ないとされていることへの対応のため、各学部では自修室が整備されてきているが、1年次学生用として総合教育棟1階にある学生ホールを自修室に改修する予定で予算要求していること、また、自修するための仕掛けとして、eラーニングの導入、PBLの導入（グループディスカッション）なども全学的に検討していかないとならないこと、学生自身が主体となって学ぶ少人数教育のための教室も用意していかないとならないことの説明があった。
- 室長から、具体的なミッションの一つ目として「教養教育の改革」があり、現在の21世紀教育に関わる諸課題については、教育推進機構会議で審議のうえ21世紀教育センター運営委員会で検討してもらう予定で考えていること、英語教育の充実ということでは、国際交流科目をできるだけ21世紀教育に組み込む、PBLの授業も組み込む、などを考えており、教育推進機構会議と教育推進室で役割を分担して効率よく進めたいと考えていること、また、教養教育の改革ということは現学長が第一に掲げたことでもあり、どのような教養教育システムとしたらよいかをできるだけ早期に考えていきたいと考えていることの説明があった。
- 室長から、二つ目として「教員の教育評価」があるが、その前に教員の教育に対する意識改革が必要であり、それと連動して教育評価を実施する、としなければならないと考えている旨説明があった。
- 引き続き室長から、教養教育の実施体制と教員の意識改革・教育評価を大きなテーマとして教育推進室で検討していきたいと考えているが、それ以外の事項も含め意見を伺いたい旨の発言があり、概ね次のような意見等があった。
- ・ 教員の教育に対する意識が低下しているという原因は、教育に対して適切な評価がされていないことで単なる負担としか感じていないことにあるような気がする。
 - ・ インセンティブの多寡による不公平感を何かの形で解消しなければならないと思う。
 - ・ 不公平感を生まないようにするには、きちんとした評価にしないと行けない。
 - ・ いま文部科学省などから様々な改革を要求されてきているが、大学の首脳部、関連する委員会に所属しているなど一部の教員だけが理解していて、それ以外の教員は関係ないということでは大学内部の意識は永久に変わらない。一人一人の教員が自分の事として考えることが大事であり、このような情報をいかにして教員一人一人に伝えていくかが重要と考えるので、学内の広報媒体を活用するか、新任教員を採用した際に理解を深めさせるとか、何らかの仕掛けが必要だと思う。
- 室長から、今後も議論していきたい旨の発言があった。

4 その他

- 室長から、次回は9月21日（金）13:00～科目ナンバリング勉強会を行う旨説明があった。

次回： 9月21日（金）13:00～（科目ナンバリング勉強会）